

多様な留学プログラムと 充実した留学支援制度

平成25～30年度 選定



名古屋外国語大学

取組のポイントや補助効果等

- ◆ 日本人学生の留学比率 全国私大1位（世界大学ランキング日本版2019）
- ◆ 難易度の高い留学プログラムへの挑戦で、社会人基礎力がレベルアップ

2018年4月に創立30周年を迎えた名古屋外国語大学は、愛知県日進市の郊外にキャンパスを構え、15万m²を超える緑あふれる広大な校地を隣接する経営母体を同じくする名古屋学芸大学とともに併用している。

「The World with Us!世界はわたしたちとともに」を掲げ、広く世界の文化や社会をめぐる学びを礎としながら、世界の人々と手を携え、その高い理想の実現をめざしてともに歩みだそうというメッセージを発信している。

多文化共生社会に向けて、外国語、教養、専門性を調和させた総合的知性を備えた「世界人材」を育成することを使命に、2019年度に開設した世界教養学部をはじめ、4学部9学科を擁する総合的な外国語大学として発展の道を歩み続けている。

取組の目的・背景

グローバル化が進展し、グローバル人材育成に対する大学への社会的要請が強まる中で、当大学にとってもグローバル人材育成に直結する長期留学に派遣する学生を増やすことが喫緊の課題であった。一方、半年以上の長期留学はコストが高く、経済的な理由から留学を諦める学生は少なくなかった。そこで語学力、成績基準など一定の条件を満たした学生に対し、留学費用の全額を当大学が負担することで、学生の経済的な負担を軽減し、

広く留学機会を提供することを目指した。併せて、留学費用全額支援制度の対象となる留学プログラムについては、2か国留学や航空サービス留学など幅広い留学プログラムを用意することにより、学生の多様な留学ニーズに応えるとともに、多様な人材の育成につながるよう工夫している。これらの目標は、「人間教育」と「実学」を建学の精神とし、世界で活躍できる人材の育成を目指す当大学の基本方針と合致している。

取組内容

留学にかかる費用を全額負担するプログラムをはじめ、ウォルトディズニーワールドでの有給実習を含むプログラム、キャビンアテンダントやグランドスタッフなど航空業界への就職を目指すプログラムに至るまで、全国的にもユニーク、かつ学生に極めて人気が高い長期留学のメニューの拡充に努めている。

留学費用全額支援制度は、語学力と成績等で一定の基準を満たした学生を対象に留学費用（留学先授業料、居住費、渡航費、教科書代、保険料、留学ビザ申請料）全額を大学が負担する制度である。学生にとっては、生活費だけで長期間留学できるという画期的な制度となっている。

対象となるプログラムは表1のとおりである。

表1 留学費用全額を支援するプログラム

留学プログラム	留学先教育機関	単位認定	留学期間
ダブルディグリー	ダブルディグリー協定校	・年間 30単位まで ・2年間60単位まで	1年以上2年以内
スタンダード	学生交流協定校	・年間 30単位まで	半年以上1年以内
2か国	学生交流協定校	・年間 30単位まで ・1年半46単位まで	1年以上1年半以内
航空サービス	セネカカレッジ (カナダ)	・年間 30単位まで	1年

≡ ダブルディグリー

留学先となる大学双方から学位を取得する留学プログラム。このシステムは欧州をはじめ世界各国で急速に普及しているが、4年半から5年をかけて2つの学位を取得するケースが多いため、4年で学位を2つ取得できる内容にこだわっている。

※語学基準例：TOEFL550+、TCF320+、中国語検定（以下中検）3級合格165点+

≡ スタンダード

協定校との交換留学プログラム。双方で学生を派遣しあうことで築かれた厚い信頼があり、留学先において安心して学べる環境を提供できる。

※語学基準例：TOEFL500+、TCF300+、中検3級合格155点+

≡ 2か国

2か国（地域）にある協定校を組み合わせで留学できる。英語圏と非英語圏の組み合わせだけでも120通りとなる。

・タイプA（専攻言語×専攻言語）

自身の専攻言語をそれぞれ違う2か国（地域）で学ぶことにより、言語運用能力や異文化理解を深める。

※語学基準例：TOEFL550+ & TCF320+、中検3級合格165点

EUに対する考え方が異なる

2つの先進国で

社会の反応を直に体感できる留学



「1国目」

イギリス



「2国目」

ドイツ

英語

英語

タイプAの組み合わせ例

・タイプB（専攻言語×複言語）

国際語としての英語習得に加え、もう1言語の習得と、豊かな教養の涵養を目指す。

※語学基準例：TOEFL500+ & 中検3級合格

異なる文化圏でありながら

同じ言語圏を持つ2つの国で、

文化や社会などの多様性に触れる留学



「1国目」

フランス



「2国目」

カナダ

フランス語

英語

タイプBの組み合わせ例

≡ 航空サービス

将来、航空サービス業界へ就職を希望する学生向けの留学プログラム。カナダ（トロント市）にあるセネカカレッジの航空サービスコースの授業を履修する。

※語学基準例：TOEFL500+



航空サービスコースの授業風景

留学費用全額支援制度以外に、就業実習により接客力と英語力を磨くことを目的としたプログラムや選考基準が比較的容易で自由度の高いプログラム（表2）を用意している。

表2 留学費用全額支援制度以外のプログラム

留学プログラム	留学先教育機関	単位認定	留学期間
ディズニー国際カレッジコース	カリフォルニア大学リバーサイド校	・年間 30単位まで	1年
認定留学	外国の政府/公的機関の認定校	・年間 30単位まで	半年以上1年以内

≡ ディズニー国際カレッジコース

将来、ホスピタリティー分野やツーリズム

分野などの業界を目指す学生向けの留学プログラム。1年の留学期間のうち、前半に英語集中コースで英語力アップを図り、後半でホスピタリティー・観光マネジメントコース(実習先：ウォルトディズニーワールド国際カレッジ)に参加する。奨学金と実習の給与と合わせて留学費用全額支給制度に準じた留学費用がカバーされる。

※語学基準例：TOEFL500+



ディズニー国際カレッジコースでの実習風景

≡ 認定留学

学生が留学先をある程度自由に決定することができる。留学先となる大学の学費は自己負担になるが、留学先によって年額20万円から60万円の奨学金が給付される。

※語学基準例：TOEFL450+、TCF250+、中検3級合格

留学に際しては、日常生活はもとより、留学先となる大学での授業など、すべて現地の言語を使用することになるため、該当する言語の実用的な運用能力が備わっていることが重要となる。留学費用全額支援制度のプログラムは、当然のこととして選考基準を高く設定している。多くの学生を派遣するためには、協定校及び協定校からの交換留学受け入れを増やす必要があり、協定校を大幅に拡大するとともに交換留学の受け入れに注力してきた。

取り組み以前と比較して留学に派遣する学生は着実に増加傾向を示しており、特に2014年度以降は大幅増となり、当初の目的は達成していると考えている。そのため、近年では、留学当初から学部の授業へ参加できるようになってほしいという考えのもと、派遣基準となる語学レベルの引き上げも行っている。

また、半年以上の長期留学を学生個人の努力で手に届くものにした点で、学生・保護者の評価は高い。

実施体制

グローバル人材育成を目的とした留学派遣を飛躍的に増加させるため、2012年度から留学費用全額支援制度を導入した。2014年には学長のリーダーシップのもと、卓越した外国語運用能力を礎に共感力と批判的思考力に優れ、Society5.0時代を逞しく生きるための高い知性、行動力、社会貢献の意識を身につけた世界人材を育成するためのアクションプランとして「Global Future Project 2018 at NUFSS」を掲げ、留学派遣の拡充を宣言している。その後、留学派遣拡大に対応して、「留学生受け入れ200人計画」(以下「200人計画」)を打ち出し、国際交流部が中心となって、外国人留学生受け入れ拡大と、そのための環境整備(留学生寮新設など)に取り組んできた。

数を増やすことと同時に、派遣する学生の質も重要であるとの考えから、学生の語学力を向上させるため、全学的な取り組みとして“超”少人数授業をはじめとする英語基幹プログラムやTOEFL講座、IELTS講座などの語学講座を充実させてきた。就職支援、キャリア・サポートの面からは、主に留学経験者・予定者を対象としてグローバル企業への就職を支援する国際派就職プログラムを開講している。また、外国人留学生向けのインターンシップ事業として、地元企業と協定を結び、就職支援の一環としている。

成功のポイントや苦労した点

成功のポイント

留学費用全額を大学が負担することにより、多くの学生の留学へのモチベーションを高められたことと、併せて保護者の理解も得ることができた点は大きい。学生募集の面でも、留学を志す中部地区の高校生にとって、留学費用全額支援制度が受験校を選択する際の重要な要素の一つになっていると認識している。

新規協定校の拡大と受け入れ交換留学生獲得により、多くの学生を派遣できる派遣枠を用意することができた。「留学費用全額支援制度導入」、「Global Future Project 2018 at NUFU」及び「200人計画」の発表を受け、国際交流部を中心に、交換留学の基盤となる協定校の拡大及び交換留学の派遣・受け入れ拡大を精力的に推進している。これにより、協定校数は2015年度の88校から2019年度149校に増加し、交換留学派遣数は、2012から2015年度までの平均147人から2017年度には290名に達した。一方、交換留学受け入れ数は2015年度の130人から2018年度には206人と大幅増となり、「200人計画」を前倒しで達成することができた。

苦労した点

当初目標としていた派遣人数を早期に達成

する見通しがついたことから、より高い語学力を身につけさせ、留学開始時から学部科目を履修できる派遣学生を増やし留学先での学修効果を高める、という趣旨で語学力の派遣基準を引き上げたため、基準変更過渡期の学生への周知には細心の注意・配慮を要した。

また、協定校ごとに教育プログラムが異なるため、協定校が増えると、そのバリエーションも増えていくことになる。限られた数の職員でこれらをすべて把握し、留学を希望する学生への対応や派遣先大学との手続きを進めなければならないため、日常業務においても工夫・改善が怠れない。

今後の課題・展望

語学力の不足により留学開始時に学部科目を履修できず、語学コースからスタートする学生が一定数いる。派遣先となる国や地域、大学などの最新情報を国際交流部がいち早く取得し、そのニーズにあった対策講座を創出するメディア情報教育センターと連携しながら語学力の強化を図り、留学開始時から学部科目が履修できる学生を増やしていきたい。

客観的な留学効果の測定・把握にも着手したところだが、学部・学科とも協働しつつ、より効果的な検証方法を模索している状況にある。

改革成果を示す客観的な数値データ（抜粋）

実績項目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
長期留学学生数（費用全額支援対象）	147人	238人	290人	193人	198人
うちダブルディグリー	2人	2人	5人	1人	0人
うちスタンダード	145人	232人	270人	174人	182人
うち2か国	—	4人	15人	14人	11人
うち航空サービス	—	—	—	4人	5人
長期留学学生数（上記以外）	67人	59人	83人	142人	86人
うちディズニー国際カレッジコース	35人	28人	28人	28人	12人
うち認定留学	32人	31人	55人	114人	74人
協定校数	88校	115校	128校	138校	149校
交換留学生受入数	130人	140人	179人	206人	210人

※ 2019年度の数値は2019年12月17日現在の集計値である

※ 2016年度から制度変更。2015年度の長期留学学生数は2012～2015年度の平均値

※ 航空サービス留学は2018年度から派遣開始